

平成21年3月期 第3四半期決算短信

平成21年2月4日

上場会社名 東洋鋼板株式会社
 コード番号 5453 URL <http://www.toyokohan.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 厚夫
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部総務部長 (氏名) 大谷 憲史
 四半期報告書提出予定日 平成21年2月12日

上場取引所 東大

TEL 03-5211-6200

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年3月期第3四半期の連結業績(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年3月期第3四半期	96,926	—	6,467	—	6,604	—	3,746	—
20年3月期第3四半期	89,746	△9.7	3,923	△21.3	3,786	△16.0	2,361	△25.0

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期第3四半期	37.18	—	—	—
20年3月期第3四半期	23.43	—	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
21年3月期第3四半期	124,528	75,667	75,667	59.4	59.4	734.33	734.33	
20年3月期	122,748	74,551	74,551	59.0	59.0	718.15	718.15	

(参考) 自己資本 21年3月期第3四半期 73,990百万円 20年3月期 72,362百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年3月期	—	2.50	—	3.50	6.00
21年3月期	—	3.00	—	—	—
21年3月期(予想)	—	—	—	3.00	6.00

(注)配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年3月期の連結業績予想(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	121,300	1.6	4,100	△21.1	4,300	△15.6	2,200	△34.7	21.83

(注)連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有

新規 一社(社名) 除外 2社(社名 東志投資有限公司、深セン東紅開発磁盤有限公司)

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 有

(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「4. その他」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 21年3月期第3四半期 100,800,000株 20年3月期 100,800,000株

② 期末自己株式数 21年3月期第3四半期 40,208株 20年3月期 36,385株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 21年3月期第3四半期 100,761,573株 20年3月期第3四半期 100,769,438株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。予想に内在する様々な不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の業績は予想数値と異なる場合があります。上記の予想に関連する事項につきましては、4ページ【定性的情報・財務諸表等】「3. 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・当連結会計年度より、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

【定性的情報・財務諸表等】

※定性的情報における「前年同期比増減率」につきましては、ご参考として掲載しております。

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年12月31日)におけるわが国経済は、平成20年秋以降の世界経済の同時減速により急激に悪化しました。先行きにつきましても世界的な金融危機、景気の一層の下振れ懸念など、深刻な状況にあります。

鉄鋼業界につきましては、年度前半は需給がひっ迫しておりましたが、10月以降内外需とも急減し、大幅な減産を余儀なくされる状況になっております。

このような状況の中で当社グループは、20年度第2四半期までは缶用材料を中心に受注が安定し、製造原価の低減、お客様のご理解による製品価格の見直しにより収益が向上しましたが、第3四半期に入り受注が大きく低迷するとともに円高要因も加わり収益が低下したものの、第3四半期累計では前年を上回ることができました。

第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年12月31日)

売上高	969億26百万円(前年同期比 8.0%増)
営業利益	64億67百万円(前年同期比 64.8%増)
経常利益	66億4百万円(前年同期比 74.4%増)
四半期純利益	37億46百万円(前年同期比 58.6%増)

第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日～平成20年12月31日)における事業別の概況は次のとおりです。

(1) 鋼板関連事業

売上高	778億95百万円(前年同期比 8.4%増)
営業利益	41億80百万円(前年同期比 92.5%増)

<缶用材料>

飲料缶材は、年度前半にコーヒー飲料向けが好調に推移したことから、スチールラミネート材が前年を上回りました。また180缶材は、実需面は弱含みですが期初の需要増により前年を上回りました。第3四半期は缶用材料全体の数量が下回りましたが、累計では数量は概ね前年並み、売上高は前年同期を上回りました。

<電気・電子部品用材料>

電池材は、国内は新型電池やゲーム機向けアルカリ電池の販売増や、モバイルパソコン用のリチウムイオン電池向けが好調に推移したことで前年を上回りました。海外は一部ユーザーの撤退がありました。第3四半期のアルカリ電池の需要増により、数量では前年を上回ったものの売上高は円高の影響を受け前年並みとなりました。ブラウン管用部材は需要が縮小していることから大きく減少しました。電気・電子部品用材料全体の累計では前年同期を下回りました。

<建築用材料>

ユニットバス向けの内装材は、住宅着工数が回復せず数量では前年をやや下回ったものの売上高は価格見直しの影響でやや上回り、建築用材料全体ではほぼ前年並みに推移しました。

<自動車部品・機械部品用材料>

自動車部品は、業界の急激な需要減少があったものの、年度前半の国内ユーザーの好調な需要と海外のシェアアップに努めたことなどで前年を大きく上回りました。機械部品として使用されるベアリング材は、年度前半の中国でのエアコン向けの旺盛な需要があったことで、車両関係の減退の

影響を受けたものの数量は微減、売上高では前年を上回りました。梱包資材用帯鋼も年度後半の鉄鋼業界減速の影響もあり数量では前年を下回りましたが、売上高では前年を上回りました。この結果、自動車部品・機械部品用材料全体の累計では、第3四半期は数量が減少しているものの前年同期を上回る水準を維持することができました。

(2) 機能材料関連事業

売上高 178億5百万円(前年同期比2.9%増)

営業利益 19億86百万円(前年同期比6.5%増)

<磁気ディスク用基板>

磁気ディスク用アルミ基板は円高、価格低下、第3四半期の需要減があったものの、数量、売上高共に前年同期を上回りました。

<機械器具及び硬質合金>

コイル結束装置などの機械器具は、結束機、工業用器具のバルブ自動開閉機ともに需要に弱さが見られ、前年同期を下回りました。硬質合金は、世界的な経済不況のあおりを受けたことで主力の射出成形機部品が低調に推移し、前年同期を下回りました。

(3) 化成品事業

売上高 12億42百万円(前年同期比111.4%増)

営業利益 2億98百万円(前年同期は1億14百万円の営業損失)

<光学用機能フィルム>

フラットパネルディスプレイ向けは、景気低迷の影響により微増にとどまりました。

<容器用機能フィルム>

飲料缶胴材用途向けは、概ね順調に推移しました。

なお、各事業の売上高、営業損益は事業間の取引による金額を含んでおります。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は、前連結会計年度末に比べ17億79百万円増加して、1,245億28百万円となりました。このうち流動資産は現金及び預金、たな卸資産の増加等により、前連結会計年度末に比べ67億30百万円増加しました。固定資産は、子会社3社を連結の範囲から除外したこと、保有株式の時価の下落により投資有価証券が減少したことなどから、前連結会計年度末に比べ49億50百万円減少しました。

負債は、借入金の返済、連結除外による減少があったものの、たな卸資産等の仕入債務の増加等により、前連結会計年度末に比べ6億64百万円増加して488億60百万円となりました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ11億15百万円増加して756億67百万円となりました。これは株式市場低迷に伴いその他有価証券評価差額金は減少したものの、利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年秋以降、世界経済は同時減速し国内経済も急激に悪化しております。先行きにつきましても世界的な金融危機、景気の一層の下振れ懸念など、深刻な状況にあります。電気電子、建築、自動車、機械など各産業とも需要が大きく減退していることから、当社の電気・電子部品用材料、建築用材料、自動車部品・機械部品用材料を中心に当初の想定より大幅に受注が低迷しております。併せて円高が急速に進行した影響などにより、通期の業績予想を修正いたします。

平成21年3月期 通期連結業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (平成20年10月30日発表)	135,600	6,900	7,000	4,300	42.67
今回発表予想(B)	121,300	4,100	4,300	2,200	21.83
増減額(B-A)	△14,300	△2,800	△2,700	△2,100	—
増減率(%)	△10.5	△40.6	△38.6	△48.8	—
前期実績	119,342	5,196	5,096	3,367	33.42

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

平成20年11月7日付で東志投資有限公司（特定子会社）の当社保有株式をすべて譲渡したため、同社及びその子会社である深圳東紅開発磁盤有限公司（特定子会社）、東紅開発磁盤香港有限公司を連結の範囲から除外しております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

①当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

②「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用

通常の販売目的で保有するたな卸資産については、従来、主として総平均法による原価法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」（企業会計基準第9号 平成18年7月5日）が適用されたことに伴い、主として総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）により算定しております。

これによる損益に与える影響はありません。

③「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の適用

第1四半期連結会計期間より、「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」（実務対応報告第18号 平成18年5月17日）を適用し、連結決算上必要な修正を行うこととしております。

これによる損益に与える影響はありません。

④「リース取引に関する会計基準」の適用

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号(平成5年6月17日(企業会計審議会第一部会)、平成19年3月30日改正))及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号(平成6年1月18日(日本公認会計士協会 会計制度委員会)、平成19年3月30日改正))が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度に係る四半期連結財務諸表から適用することができることになったことに伴い、第1四半期連結会計期間からこれらの会計基準等を適用し、通常の売買取引に係る会計処理によっております。また、所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法については、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、リース取引開始日が適用初年度前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

これによる損益に与える影響はありません。

5. 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,677	9,310
受取手形及び売掛金	20,297	20,732
商品及び製品	14,397	11,472
仕掛品	4,495	4,342
原材料及び貯蔵品	8,752	7,345
その他	4,483	4,179
貸倒引当金	△278	△288
流動資産合計	63,825	57,094
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,255	19,536
機械装置及び運搬具(純額)	18,378	21,271
土地	11,959	11,960
建設仮勘定	1,901	1,371
その他(純額)	1,486	1,589
有形固定資産合計	51,980	55,728
無形固定資産	681	682
投資その他の資産		
投資有価証券	3,439	5,166
その他	4,648	4,125
貸倒引当金	△48	△49
投資その他の資産合計	8,040	9,242
固定資産合計	60,702	65,653
資産合計	124,528	122,748

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成20年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	16,943	12,077
短期借入金	18,909	20,794
未払法人税等	1,676	1,045
役員賞与引当金	—	66
その他	4,913	6,054
流動負債合計	42,442	40,039
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	351	2,079
退職給付引当金	457	442
役員退職慰労引当金	14	36
PCB対策引当金	328	328
その他	265	269
固定負債合計	6,418	8,157
負債合計	48,860	48,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,040	5,040
資本剰余金	6	6
利益剰余金	69,099	66,008
自己株式	△17	△15
株主資本合計	74,129	71,039
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	577	1,474
繰延ヘッジ損益	△82	38
為替換算調整勘定	△633	△189
評価・換算差額等合計	△138	1,323
少数株主持分	1,676	2,188
純資産合計	75,667	74,551
負債純資産合計	124,528	122,748

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)
売上高	96,926
売上原価	82,267
売上総利益	14,658
販売費及び一般管理費	
運賃諸掛	2,819
給料及び手当	1,702
退職給付引当金繰入額	147
その他	3,521
販売費及び一般管理費合計	8,190
営業利益	6,467
営業外収益	
受取利息	91
受取配当金	189
その他	309
営業外収益合計	590
営業外費用	
支払利息	329
その他	123
営業外費用合計	452
経常利益	6,604
特別損失	
関係会社株式等譲渡損	547
投資有価証券評価損	222
特別損失合計	769
税金等調整前四半期純利益	5,835
法人税等	1,989
少数株主利益	99
四半期純利益	3,746

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

当第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	
売上高	30,921
売上原価	26,747
売上総利益	4,174
販売費及び一般管理費	
運賃諸掛	869
給料及び手当	547
退職給付引当金繰入額	47
その他	1,213
販売費及び一般管理費合計	2,678
営業利益	1,496
営業外収益	
受取利息	28
受取配当金	61
技術指導料	94
その他	5
営業外収益合計	190
営業外費用	
支払利息	103
為替差損	148
その他	50
営業外費用合計	302
経常利益	1,384
特別損失	
関係会社株式等譲渡損	547
投資有価証券評価損	222
特別損失合計	769
税金等調整前四半期純利益	614
法人税等	103
少数株主利益	65
四半期純利益	445

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	5,835
減価償却費	5,389
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△12
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	533
その他の引当金の増減額 (△は減少)	△88
受取利息及び受取配当金	△281
支払利息	329
有形固定資産除却損	19
有形固定資産売却損益 (△は益)	△13
投資有価証券評価損益 (△は益)	222
投資有価証券売却損益 (△は益)	△46
関係会社株式等譲渡損益 (△は益)	547
売上債権の増減額 (△は増加)	204
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,863
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,479
その他	△1,596
小計	11,660
利息及び配当金の受取額	282
利息の支払額	△308
法人税等の支払額	△1,745
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,889
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△4,898
有形固定資産の売却による収入	24
無形固定資産の取得による支出	△213
投資有価証券の取得による支出	△1
投資有価証券の売却による収入	46
連結の範囲の変更を伴う子会社株式等の売却による収入	141
その他	△11
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,912
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	362
長期借入金の返済による支出	△2,134
配当金の支払額	△637
少数株主への配当金の支払額	△65
その他	△4
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,478
現金及び現金同等物に係る換算差額	△131
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	2,367
現金及び現金同等物の期首残高	9,310
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,677

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日) (単位:百万円)

	鋼板関連 事業	機能材料 関連事業	化成品 事業	計	消去 又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	25,289	5,278	353	30,921	—	30,921
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	0	—	2	(2)	—
計	25,292	5,278	353	30,924	(2)	30,921
営業利益	974	508	11	1,494	1	1,496

当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日) (単位:百万円)

	鋼板関連 事業	機能材料 関連事業	化成品 事業	計	消去 又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	77,885	17,797	1,242	96,926	—	96,926
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	8	—	18	(18)	—
計	77,895	17,805	1,242	96,944	(18)	96,926
営業利益	4,180	1,986	298	6,466	1	6,467

(注) 1 事業の区分は内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

鋼板関連事業……各種鋼板及びその加工品

機能材料関連事業……硬質合金、磁気ディスク用基板、クラッド材、機械器具等

化成品事業……光学用機能フィルム、容器用機能フィルム

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	6,032	1,011	7,043
II 連結売上高（百万円）			30,921
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合（%）	19.5	3.3	22.8

当第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高（百万円）	19,431	3,557	22,989
II 連結売上高（百万円）			96,926
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合（%）	20.0	3.7	23.7

(注) 1 国又は地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国又は地域

(1) アジア……中国、韓国、シンガポール

(2) その他の地域……米国

3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

【参考資料】

前四半期に係る財務諸表

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

科 目	前年同四半期 (平成20年3月期 第3四半期)
	金額(百万円)
I 売上高	89,746
II 売上原価	78,006
売上総利益	11,740
III 販売費及び一般管理費	7,816
営業利益	3,923
IV 営業外収益	511
V 営業外費用	648
経常利益	3,786
税金等調整前四半期純利益	3,786
税金費用	1,564
少数株主損失	139
四半期純利益	2,361

(2) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前第3四半期連結累計期間(自平成19年4月1日至平成19年12月31日) (単位:百万円)

	鋼板関連 事 業	機能材料 関連事業	化 成 品 事 業	計	消 去 又は 全 社	連 結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	71,865	17,293	587	89,746	—	89,746
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	6	—	6	(6)	—
計	71,865	17,299	587	89,752	(6)	89,746
営業利益(△は営業損失)	2,171	1,865	△114	3,922	1	3,923

(注) 1 事業の区分は内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

鋼板関連事業……………各種鋼板及びその加工品

機能材料関連事業……………硬質合金、磁気ディスク用基板、クラッド材、機械器具等

化成品事業……………光学用機能フィルム、容器用機能フィルム